

## 神聖なる師に魅了される瞬間

60年間近く敬虔で信心深い帰依者であった、タミル ナードゥ州出身のラニ スッブラ マニーム女史（訳注：2012年12月1日逝去）がバガヴァン ババ様のもとを訪れたのは、早くも1950年のことでした。現在85歳で（2008年4月時点）、バガヴァンは親しみを込めて彼女のことを「ラニ マー」と呼ばれています。彼女の人生は、往年のきらめく体験の宝石箱でした。真摯な霊性求道者である彼女は、現在、プッタパルティに在住し、深い信念、洞察力、そして信仰心を持つ熱心な帰依者たちのために、彼女を高めた数々の思い出を分かち合ってくださいています。これは彼女の素晴らしい回想録の第2部です。再度、第一部を読まれる方はこちら [ラニ マー 第1部](#) をクリックして下さい。

### ラニ マー女史へのインタビューより

#### 第2部



あるときスワミは私におっしゃいました。「ラニ マー、あなたが私の恩寵を手にしたのは、そのような人生をあなたが生きてきたからです！」それ（私の人生）は完璧ではないかもしれませんが。わかりますか？ あなたがババ様と共に歩む道を行くとしても、それは一晩で完璧な人になるという意味ではないのです！ 私たちには人間として脱却しなければならない多くの欠点や、多くの欠陥があるのです。霊的な人生は、私たちが歩んできた人生とは完全に異なるから

です。人生全体を再構築し、再設定しなければならないということです。それは大仕事です。私たちの想い、言葉、行い、すべてを霊的にするということです。それは容易なことではありません。一方を考えていながら、他方のことを話すといった習慣が、単に一度の人生だけではなく幾度も生まれ変わってくる中で形成されているからです！ 私たちは幾度も人間のような前世を生きてきました。そして今、突然、神聖なる生涯を歩まなければならないのです！

#### 霊的な人生を送る意味とは何か

霊的な人生とは何でしょうか？ それはどんなときでも、源（神、真我）と共にあなた自身がつながっている神聖な人生のことです！ それは、神のレベルから考え、話し、働

くことです。それが、ババ様が私たちに話されたことです。

「あなたは私の遍在をテストしなければなりません」 更にババ様は言われました。

「あなたが私の恩寵を勝ち得たのは、あなたが単に（恩寵を）獲得したからではなく、内なる真我と共に働いたからだけなのです。あなたは自分自身で英知を身に付け始めていますが、最後の非常に大変な、博士課程のテストに合格しなければなりません」

このテストを、私は何度も生まれ変わって受けるのかもしれませんが！ しかし、私は諦めることはできません。たとえこれまで 10 回生まれ変わってきたにせよ、少なくとも私は 1 回目から 10 回目までの人生を歩んで来たのです！ 「一步だけを見つめなさい！ あなたがどこに行くのか、この人生であとどのくらい行けば到達するのかを、どうして知りたがるのですか？ それ（このような質問すること）はすべて誤りです」と、スワミが言われたのはこのような理由からです。スワミは個人的に私たちにお話してくださいました。

「先を見てはなりません！ ただ目の前の一步のみを見つめなさい！」

例えば、自分は短気で、貪欲で、とても不愛想で、とても自分勝手であるなど、自分自身が持っているかもしれない欠点があります。各自に異なった短所があります。その欠点は何でもあり得ます。ババ様は皆さんに無私になってほしいのです。スワミはおっしゃいました。

「それ（無私になること）はあなたが優先すべきことです。あなたは常に他人を最優先すべきです。あなた自身のことを忘れなければなりません。それが究極の自己実現（悟り）です」

自己実現の最終段階とは何でしょうか？ あなた自身を忘れることです！ 私たちは常に、この肉体である自分自身のためだけに、これやあれやと欲しがります！ これは霊的な道においては禁じられています。自分自身のことは忘れなければなりません。初めにあなた自身の内なる神を見て、あなたの内に神が内在することを確信しなければなりません。初めにあなたのグルの内に神を見て、二番目にあなた自身の内に内在者としての神を見るまで、あなたはすべての人の内に神を見ることはできないでしょう！

## 主なる神をテストする

そして、スワミはおっしゃいました。

「行って、私をテストしなさい」そして私はスワミをテストしました。何が起きたのでしょうか。私の夫は医者ですので、家族の者が何かの病気になれば、必要なときには医者をお呼びすることができます。あるとき夫は、マディヤ プラデーシュ州（インド中央部）中を検診で回らなければなりませんでした。その最中に、息子が重い病気になり、摂氏 39.4 度～40 度の高熱が 5 日間も続きました！ ある医者が来て息子の容態を診た際は、最初、息子はマラリアにかかっているのではないかと考えていました。そしてその後、その医者は息子の病気はインフルエンザだと告げました。けれども、その医者は正確な病気の原因を見つけることはできませんでした。医者は処方し続けましたが、息子の病気はどんな薬も効きませんでした！ それから 4 日目に、その医者は私のところに来て言いまし

た。

「私は息子さんに、マラリア、流感、デング熱、と薬を変えて処方してきましたが、私の処方反応はなく、どれも効きません。それで、息子さんの病気が腸チフスではないかと考えられます」

腸チフスの適切な治療を受けるためには血液検査をしなければなりません。医者は言いました。「明日の夕刻、私は息子さんの血液を採取しに来ましょう。検査後に病気が腸チフスだと確定すれば、その治療を開始します」

息子は当時、まだ5歳か6歳で、熱はまったく下がりませんでした！彼はせん妄状態になりました！彼の脳は錯乱していて人を認識することができなくなり、何が起きているのかわからなくなっていました。無意味なことをあれこれ口走っていました！息子は私が母だということも認識しなくなり、ただ私を見つめ、それからベッドから走り去り、赤ちゃん言葉を話していました！私にはどうして息子がこのような言葉を発するのか理解できませんでした！わからなかったのです。息子の病気が脳炎か何かそれに似たものではないかと思いました！息子をベッドに連れ戻そうとしても、すぐに走り去りました！私は心配し、いったい息子に何が起こったのだろうと思い悩みました！



そして突然、パパ様のお考えが私の心に浮かびました。

「私の遍在をテストしなさいと言ったであろう！今がそのテストをするときです！行って、私に祈りなさい」実際に声か何かを聞いたわけではありません。ただ、それが私自身の心の中に浮かんできたのです。とりあえず私はメイドに息子の面倒をみてくれるように頼んで、ただ祈るために（礼拝室へ）行き、戻ってくるつもりでした。

そして夜9時に、私は自宅の祭壇のある部屋に行き、スワミに話しかけました。

「スワミ、あなたは遍在をテストするように言われました。今日、私はあなたの遍在が必要です。この子が発狂して異常な行動をとっているのです！私には何が起きているのかさえわからないのです！あなたの助けが必要です！どうか来て何とかしてください。本当にスワミが来てくださり、息子を救ってくださるなら、条件を三つ聞き入れてください！一つ目は私が息子さんの元に戻ると彼がぐっすり眠っていて、走り出して無意味なこと口走らないようにしてください！もし聞き入れてくださるなら、私はあなたが遍在であるとわかるでしょう」

「二つ目は、朝、私が目覚めて息子さんの熱を測ると平熱になり、ちょうど摂氏36.8度になっていること。摂氏37.2度（華氏99度）なら私は受け入れません！体温は通常午後

上がりますから、午後にも再度、測ります。そして夕方になってもまだ摂氏 36.8 度を保っていること！ 息子はすべての面で正常に完治しなければなりません！ そうすれば、私はスワミが息子を救ってくださったことを信じるでしょう」

スワミは神と繋がるために、ジャパをして、神の御名を唱えなければならないと言われました。神はフリダヤヴァースィー、内在者であり、私だけでなくすべての人の祈りも聞いておられます。なぜならスワミは万人に内在されているからです。それゆえ私の祈りのメッセージは神に届くのです。私にはマントラがあったので、祈りの部屋でしばらく座って、そのマントラを唱え始めました。

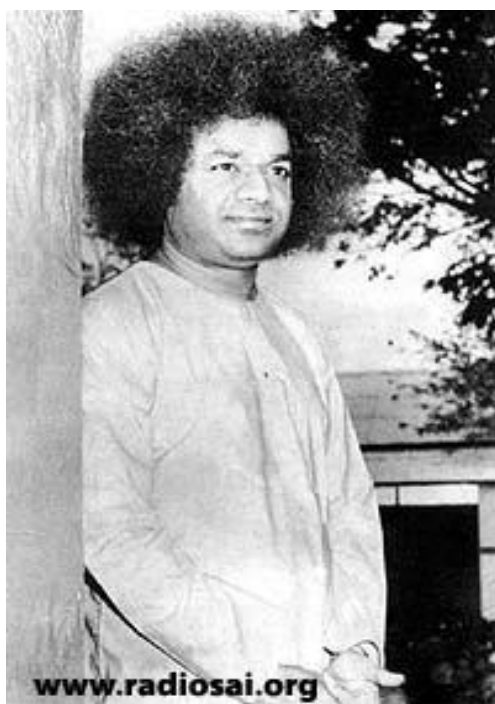
そして、立ち上がって寝室に戻ると、息子が熟睡しているのを見つけました！ 私はメイドに尋ねました。

「いつ眠ったのですか？」 彼女は言いました。

「奥様、あなたがここを離れられてから数分後に、息子さんは眠りに落ちました」

私が祈りに行ってから息子が起きることはなく、ぐっすり眠っていたのです！ そして、翌朝も息子は正常に目覚めたのです！ 赤ちゃん言葉の戯言を話す息子はそこにはいませんでした！ 彼がいつもの息子に戻ったことが私にはわかりました！ そして息子の熱を午後と夕方に測りましたが、体温は摂氏 36.8 度でした！ これ以上、私は何を望めばよいのでしょうか？

## 神の明確な答え



その時、ちょうどスワミはヴェーンカタギリ（インド南東部）で、ヴェーンカタギリのマハーラージャ（藩王）一族と一緒におられ、夜の 9 時に彼らと話をされていました。当時、スワミはシュリ ラーマ ナヴァミー祭の間、ヴェーンカタギリの藩王とクマーラ ラージャ（王の息子）のところに滞在されたものでした。マハーラージャ はヴェーンカタギリまで車でスワミをお連れしていました。マハーラージャは偉大なラーマ神の帰依者であり、彼にとってババ様は大好きな神様だったのです。ですからその時、夜 9 時に私が祈りを捧げていた時、スワミはちょうどヴェーンカタギリのマハーラージャ（藩王）と話をされていたのですが、トランス状態に入ってしまった！ スワミは仰向けに倒れ、彼ら（藩王とその息子）は何が起こったのか理解できませんでした！ クマーラ ラージャは、スワミがまるで意識を失い、突然倒れてしまったかのように思いました！

スワミの意識が回復すると、二人はスワミに尋ねました。

「スワミ、いったい何が起こったのですか!？」

彼らはトランス状態について聞いたことはありましたが、その時まで、実際にそれを目撃した経験はありませんでした。そこで彼らはスワミに尋ねました。

「トランス状態に入られていたのですか? どこかに行っておられたのですか?」

スワミはこのこと(トランス状態でどこかへ行ったこと)をお認めになりました。

そこで、彼らはスワミに尋ねました。

「いったい何が起こったのですか? どうしてトランス状態に入らなければならなかったのですか?」 スワミはお答えになりました。

「私の帰依者の一人、ラニ マーが大変困難な状態にいたのです」

スワミは私の名前(ラニ マー)を口にされたのです! スワミはおっしゃいました。

「彼女の夫は検診の出張に行っていて、自宅におらず、彼女と二人の子どもたちがいるだけでした。彼女の幼い息子は高熱のために錯乱状態になっていました。彼女はとても心配し、困り果てていました。彼女は私に祈りました。『スワミ、私のところに来てあなたの遍在を見せてください!』そのため、私はその少年の元に行き彼を救ってきたのです。もうその少年は大丈夫です」

ヴェーンカタギリの藩王は嬉しくなり、言いました。

「おお、良かったですね!」

しかし、若者のクマーラ ラージャは言いました。

「スワミ、次回そのラニ マーがいらしたら、彼女に是非、お会いしたいです。そしてあなたがお救いになった幼い少年にも会いたいです。私に彼らを見せてくださいますか?」マハーラージャ(藩王)は息子のようにスワミに願うことは何もありませんでした。マハーラージャはスワミを完全に受け入れていたからです。しかし、若いラージャは証拠が欲しかったのです。スワミはおっしゃいました。

「心配いりません。彼女は半年ごとにここへ来ます」

## シャーンティ(平安)を得る

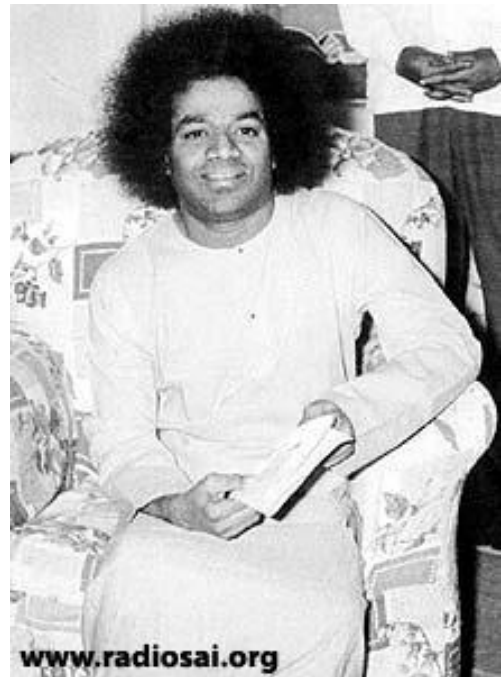
私はかつて半年ごとに、時には年に三度も、プッタパルティに来ていました。当時、スワミのオーラはとてもパワフルだったことをお伝えしておかなければなりません! スワミは非常に短期間の内に、私たちの考えのすべてを真に変革することができました! 初めての訪問のとき、数日間で私は何もかも受け入れることができたのです! 通常なら、私は自宅に雨が入ってくるのを受け入れることができず、(感情的に)反応してしまっていたでしょう! けれどもそこでは何も反応しませんでした。スワミが神の力を私たちに体験させてくださったのです。

理解できない人もいるかもしれませんが、私は最初の訪問だけで理解できました。スワミに無限の力が備わっていることを理解する恩寵を授かっていたのです! 私たちはどのようにして乗り越えることができたのでしょうか? 私たちは(そこでの不便な生活が)苦になると思っていたのですが、困ることは一切ありませんでした。用を足すにも丘

まで行かなければなりませんでしたが、「ああ！ 歩かなければならないのか」とか「ああ！ トイレがない」と悩まされることはなく、喜んで歩いて行きました。

水道水もなかったので、たくさんの衣類を洗うために、井戸の水を汲むか、そこにいた大勢の子どもたちと一緒に連れて、まるで洗濯屋のように延々とパタ マンディールからチットラーヴァティー川まで歩いて行き、また戻って来ていました。このようなことにはまったく慣れていませんでした！ にもかかわらずプッタパーティを去るときは泣いていたのです！ 信じられますか？ 私たちは自宅に帰りたくなかったのです！ スワミは何をなさったのでしょうか？ それはたった一晩の変容だったのです！ 私たちがとても祝福されていることを身に染みて感じました。

私は現在、無執着ですとは申しません。今は快適さ（便利な設備）をより意識しているかもしれません。しかし当時、スワミはただ何かを私たちに体験させたかったのです。それ（スワミのパワー）は、永続的に得られたものではありませんでした。シュリ ラーマクリシュナ [19世紀のベンガルの聖者] が、スワミ ヴィヴェーカーナンダ [ラーマクリシュナの愛弟子] に、ニルヴィカルパ サマーディ（至高の至福、絶対実在と融合した段階、無の境地）を少しの間だけ体験させ、そこから戻ってきてからはその体験を秘密にさせたように、ババ様も私たちに同じことをなさいました。スワミの無限の力と恩寵を体験させてくださったのです。スワミはどんなことでも、いとも簡単にできるのです！ スワミに時間は必要ありません！ この恩寵を得るために6年ものサーダナ（霊性修行）をする必要はありませんでしたし、何も必要なかったのです！ それは瞬時にして起こりました。しかし、そのちょっとした体験だけでした。サーダナ（霊性修行）を通してのみ、神のパワーは永続的に実現できるのです。



今でも自分たちだけで対処しなければなりません。なぜなら人々を動揺させる非常に多くのできごと、悲惨なできごとのような嫌なできごとが、私たちの家族にたくさん起こるからです。それは少しの間、私たちを動揺させるかもしれませんが、ずっとその混乱が続くわけではありません。私たちには、その状況を乗り越える英知があるからです。なぜ常にそのこと（悲惨で嫌なできごと）が私たちに影響を及ぼさないのでしょうか？ 心配しないからです。私たちの内にまだグニャーナ、英知が定着していない間は、瞬間的に動揺するでしょう。英知が定着するまでは、永続的な心の平静（平常心）は得られないでしょう。

何か喜ばしくないことが起こるような体験を通じて、スワミは私たちに示してください

います。私たちは「どうしてこんなことが起こらなければならないのか？」と考えるかもしれません。それについて考え込み、あまりに多くのことを考えて（労力と時間を）費やしてしまいます。心配しないようスワミに祈ることはありません。多くの時間を、多くのことを考えることに費やすならば、それは私たちのすべきことではありません。

外見的に起きている物事に対して瞬時に反応をしないことは、私たちが修得し、成就しなければならないことです。それは、スワミが私たちに与えたいと望んでおられる成就すべきことなのですが、私たちは自分自身で（瞬時に反応しないことに）取り組まなければならないかもしれません。そして各自が自分自身の器量によって（このことを）実践するでしょう。

器量とは、プララーブタ カルマ（過去から蓄積されたカルマにより現在に持ち越されて経験していること）、つまり過去世からの傾向や長所を意味します。私が他の誰かのようになんかしたくても、できないのです！ なぜでしょうか？ それは私のプララーブタ カルマのためです。かつて、私たちはスワミにプララーブタ カルマは拭い去ることができるかどうか尋ねたことがあります。スワミはおっしゃいました。

「はい。あなたが自らのプララーブタ カルマを作ったのです。神はあなたのカルマには関係ありません。あなたが自分のカルマと運命を記し、ここ（現在）へたどり着いたのです。あなたは自分でそれを拭い去らなければならないかもしれません」

「試験の答案用紙のように、自分で答えなければならないかもしれません。他の誰かが来て、あなたのために答を訂正できますか？ いいえ！ 先生できえも（代わりに）回答することはできません！ これはあなた自身が一人で立ち向かわなければならないテストです！ あなたが自分の運命を記しました。あなたはその運命を消し去ることができるのです」

どのようにしてできるのでしょうか？ スワミはかつてホワイトフィールドで、私に話してくださいました。それは「グルへの服従」に関することで、私はこのことを決して忘れることはないでしょう。他に知る必要のあることは何もありません。私たちは現在、スワミのご講話で「グルへの服従」について聞くことができます。スワミがそれを個人的に話されることはありません。現在は、何百万もの人々がスワミの元を訪れています。個別にすべての人に話すことができるのでしょうか？ 無理です！ その当時は100人もいませんでした！ ですから当時、スワミは多くの時間を（帰依者のために）割くことができました。スワミの時間はどれだけありますか？ 24時間あるのみです！ 時間は延長できません。スワミの時間も24時間だけです！ スワミは非常に多くのことをその限られた時間内に割り当てられています。現在、スワミがすべての人にインタビューを与え、すべての人と話することは不可能です！

スワミは何年も前に、その件についてお話してくださいました。

「あなたは大変幸運です！ このチャンスを再び得ることはできないでしょう！ 何年か後には、この幸運を得ることはないでしょう！」

現在、私はスワミと直接話すのでしょうか？ いいえ！ 私たちはただスワミを見て、

戻ってきます。かつてスワミと一緒に非常に多くの楽しい時間を過ごしたことが信じられません！ あるとき、スワミは私にお話してくださいました。

「古い帰依者は身を引いて、後ろに行き、新しく来た人に前の場所を譲らなければなりません」 それは、古くからの帰依（献身的な愛）に対する恩寵なのです。

## 何を神にお願いすべきか？

古い帰依者が来ると、前の列に座りたがり、インタビューを欲しがります。あなたは何を吸収したのでしょうか？ 何もありません！ 私の友人である一人の古い帰依者のことを、スワミは「彼女は来るたびに毎回インタビューを欲しがると話されていました。



スワミは彼女のことも大変可愛がっておられました。その帰依者はマドラスから来ており、1か月か2か月ほど滞在し、ここを発つ前に毎回インタビューをお願いしていました。スワミがインタビューを許可してくださらなくても、彼女は強くお願いしていました。するとスワミは「わかりました、行きなさい」とおっしゃったものでした。スワミは古い帰依者には「ノー」と言えなかったのです。私はスワミをテストしました！

私たちはスワミにお願いをします。しかし、本来はお願いすべきではないのです！ 長い年月、スワミの元を訪れる利点とは何でしょうか？ 私はここを訪れて57年になりますが、資格は何もありません。その答えをお話しましょう！ ここにきて10日間しか経っていない人が、私よりもずっと多くのことを悟ることができるのです！ なぜなら彼らは理解していて、準備ができていて、霊的に成熟しているかもしれないからです！ スワミを理解するには、霊的に成熟していなければなりません。そしてあなたの人生は、あなたのしたいように合わせるのではなく、スワミの御教えに合わせなければなりません。そうすれば、サムプールナ クリパー、十分な神の恩寵を受け取ることができ、あなたのプララブタ（過去から持ち越したカルマ）は消え去ります。スワミは偉大な功績を望んでおられるわけではありません。ただいつもスワミのことを憶念することだけです。それはとても簡単なこと、ナーマスマラナ（神の御名の吟唱）です。「スワミ、私はあなたにすべてを委ねます！」と祈り、平安でいることです。何年か前、私がここを訪れて数年後、あるときスワミは私にお話してくださいました。

「あなたは祈り方を知らないのですね。あなたの祈りはすべて誤りです。私が祈り方を教えてあげましょう」

私には何が誤りなのかわかりませんでした。なぜならスワミはこう言われたからです。

「あなたは『私はこれが欲しい・・・あれが欲しい・・・私はこの方法で、これがしたい・・・』など、いつもあれこれとお願いしています。決してそのように祈ってはな



りません。ネックレスやバングル（腕輪）や物質的なものを求めるなら、それは断片的な祈りにすぎません。それを完全な祈りにしなさい。その完全な祈りとは、**平安**を求める祈りです。パラマ シャーンティ、至高の平安、これは永遠に外部の何かによって乱されることがありません。これがあなたの求めるべきものであり、私があなたに授けるものです」

そして、スワミは付け加えられました。

「私があなたにどうやってそれを与えるかわからないでしょう！ 私はそれがあなたに届く方法を知っています。私に委ねなさい！ ただ『スワミ、私は平安が欲しいです』と言いなさい。あなたが祈るべきことはそれがすべてです。この人はこのようにあるべきだ、あの人は私を困らせる、もっとお金が欲しい、家が欲しい、などと決して祈ってはなりません。お願いしなくても、私は与えます」

## 神のみが与えることのできる財産



かつて、私たちは『バガヴァッド ギター』の「プラヴリッティ マルガ — 二又の道」の章を読んでいました。スワミはおっしゃいました。

「あなたは善い帰依者です。私に帰依し、祈り、サーダナ（霊性修行）を行っています。それゆえ、この世で欲しいものは何でも与えましょう！ でもそれを得るとあなたは私を得ることができません！ この世のものは何でも手に入れるでしょうが、神を得ることはできないでしょう！ 神は平安です！ 神は真実、正義、平安、愛です！ 私は愛であり、平安であり、慈愛なのです！ あなたがこれらを手に入れることはないでしょう！」

「しかし、お金も地位も権力も、それ以外のものはすべてこの世で手に入れるでしょう。あなたが欲しがれば、私はそれを与えましょう！ しかし、それらすべてが手に入れば入るほど、あなたはさらに平安を失うでしょう！ さらに問題が増えるでしょう。ですからそれらを求めてはなりません！ あなたが賢い人で、善い帰依者であるならば、黄金を求めなさい！ 平安が黄金です。平安があれば、それによって何でも手に入れることができます。ですから黄金の平安を求めなさい。純粋な黄金です！ この平安は純正の黄金です！ それは私があなた方全員に与えるためにやってきたもの — 至高の平安です」

主なるクリシュナ神は『バガヴァッド ギター』の中で、アルジュナがクリシュナ神に同じ質問をした際に、それと同じことをおっしゃっています。

「スワミ、私があなたに従えば、私に何を授けてくださいますか？」

クリシュナ神は言いました。

「アルジュナ、永遠に外部の何ものによっても乱されることのない、**至高の平安**を君

に授けよう。利益や損失、賞賛や批判、勝利や敗北はすべて同等になるだろう。これらすべては両極の対なのだ。君はこれらのすべてを超越するだろう」

また私たちは、暑い、寒いといった問題を感じることもないでしょう。なぜなら暑いときに「ああ！ とても暑い！」と言いつけるなら、それは失格です！ 寒い時にも「ああ！ もっと暖かいといいのに！」と言うのなら、それは物事に反応していることを意味しています！ 些細なことは気にすべきではありません！

私たちはコメント〔批評・所感〕さえも述べるべきではありません！ そのコメントが真実であり、疑いのないものであったとしても、コメントは私たちの意識状態を作ります。本来、私たちに平安をもたらすことのできる意識状態の効力がなくなるのです。私たちにとって有益な、その意識状態（平安）を手に入れることはできないでしょう。

（第3部へ続く・・・）

出典：[http://media.radiosai.org/journals/Vol\\_06/01MAY08/14-h2h\\_special.htm](http://media.radiosai.org/journals/Vol_06/01MAY08/14-h2h_special.htm)